

令和5年第9回定例教育委員会会議録

1. 開催日時 令和5年9月27日(水)
午後2時55分～午後4時10分
2. 開催場所 柏原市教育委員会 会議室
3. 出席した委員 教 育 長 新 子 寿 一
教育長職務代理 田 中 保 和
委 員 近 藤 温 子
委 員 西 村 弥 生 子
委 員 太 田 貴 之
4. 出席した職員 教 育 部 長 桐 藤 英 樹
教 育 監 中 平 好 美
教育総務課長 栗 田 聖 子
指 導 課 長 小 室 吉 昭
事務局教育総務課 塩 谷 行 由
5. 議 事 案 件
議案第29号 柏原市教育委員会事務局職員人事の承認について
議案第30号 令和5年度全国学力・学習状況調査の結果の公表内容について
6. 報 告 事 項
7. 会議録の承認及び会議の要旨
新子教育長：定刻より少し早いですが、お揃いでございますので、令和5年第9回定例教育委員会会議を開会します。本日の会議録署名委員は、近藤委員にお願いいたします。次に、事前に送付させていただいております会議録につきまして、ご意見等ございませんか。
委員全員：なし。
新子教育長：それでは、会議録は承認することにいたします。本日の議事に入っております。本日の議事案件は2件です。どうぞよろしくお願いいたします。それでは、議案

の審議に入ってまいります。議案第29号について、教育総務課栗田課長より説明をお願いします。

栗田課長：議案第29号柏原市教育委員会事務局職員人事の承認について説明させていただきます。本日配布しております資料に人事異動内容を記載しております。ご承認いただきますようお願いいたします。

新子教育長：ご質問、ご意見等ございましたらお願いいたします。

委員全員：なし。

新子教育長：ないようでございますので、議案第29号柏原市教育委員会事務局職員人事の承認について、原案どおり承認してよろしいでしょうか。

委員全員：異議なし。

新子教育長：それでは、議案第29号柏原市教育委員会事務局職員人事の承認については、原案どおり承認することにいたします。次に、議案第30号について、指導課小室課長より説明をお願いします。

小室課長：議案第30号令和5年度全国学力・学習状況調査の結果の公表内容について指導課よりご説明申し上げます。まず、資料の表紙をめくった1ページには本調査の概要を示しております。調査目的及び調査対象学年はこれまでと変わりはありません。本年度、国分中学校は、インフルエンザによる学年閉鎖のため後日実施となり、全体集計には含まれておりません。調査内容につきましては、下の国立教育政策研究所のホームページのある以下のURLに掲載されています。

2ページをご覧ください。まず全体の平均正答率といたしましては、小学校は大阪府と比較し、国語は同等、算数は下回りました。全国との比較では、国語、算数ともに下回りました。中学校は、国語、数学、英語ともに全国及び大阪府を下回っております。全国の平均正答率を1として表した値で全国と比べて推移を見てみますと、小学校のグラフは令和3年度まで上昇傾向でしたが、昨年度から今年度にかけて下降傾向となっております。中学校では、変動が大きく、昨年度は全国を上回っていましたが、今年度は下回る結果となりました。同一集団による経年比較は、現中学3年生は6年生の時に調査が未実施のため、比較はできません。

続く3ページは、正答率40%以下及び80%以上の児童生徒の割合を、全国の平均正答率を1として表した値でございます。小学校、中学校ともに、正答率40%以下の割合が増加傾向で、今年度は全国より大きく上回り、正答率80%以上の割合は減少傾向で、全国値よりも低い結果となりました。同一集団による経年比較は、こちらも現中学3年生は6年生の時に調査が未実施の為比較はできません。

4ページからは調査問題ごとの結果になります。まず小学校国語についてですが、学習指導要領の内容「話すこと・聞くこと」の領域のみが、全国と同様の値で、前年度の調査と比較しても、上昇しております。

次の5ページをご覧ください。昨年度、学力向上対策委員会で、課題だけでなく、成果、つまり正答率が高かった問題、無解答率が低かった問題も載せてはどうかというご意見をいただき、本年度から載せております。調査問題ごとに成果と課題が見られた設

問を各調査結果の後ろに付けております。ホームページ上では拡大して読むことができます。本日は冊子を用意しております。

小学6年国語冊子、赤の付箋をご覧ください。この設問の趣旨は、日常よく使われている敬語を理解しているかどうかというもので、大阪府、全国を3.2ポイント上回っております。課題のある問題は、青の付箋をご覧ください。情報と情報との関係づけの仕方、図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き方を工夫することができるかどうかをみる問題になっております。正解は4ですが、柏原市では3割の児童が1に○をするという誤答が多くありました。

6ページは算数になります。算数は全て、領域で全国及び大阪府より低い結果でした。特に「データの活用」の領域では、全国を3.2ポイント下回る結果となりました。

次の7ページの、課題が見られた設問に表れております。問題冊子小学校算数、緑の付箋をご覧ください。特に、二次元の表から条件に合う数を読み取るかどうかをみるという趣旨の問題の正当率が、全国、府から大きく下回っております。

8ページは中学校の国語になります。平均正答率は全国より2.8ポイント下回っています。正答数分布から、正答数1問～5問の低位層の割合が大きく、8問から11問程度の中位層の割合が少ない傾向となっております。

9ページをご覧ください。全国と比べ正答率がわずかですが、高かった問題があります。になります。ただ、無解答率も高い問題となります。中学校国語冊子、赤色の付箋をご覧ください。読み手の立場に立って、叙述の仕方など確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる趣旨の問題になっています。正解は4になります。課題がある問題は、青色の付箋をご覧ください。自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる問題です。無解答率が全国や府と比較して、大きく上回っております。

10ページは数学になります。こちらも国語と同様に、全体の正答率およびすべての領域、観点、問題形式において、大阪府と全国平均を下回っています。特に、データの活用では、全国を8.9ポイント下回る結果となりました。

11ページをご覧ください。中段の問題は、全国と比較して正答率も低く、無解答率も29.8%と、3割近くの生徒が書けなかった問題となります。中学校数学緑色の付箋をご覧ください。複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうか見る問題になります。比較的長い記述式の問題で、全国でも3割程度の正解と、高くありませんが、無解答率が多いのが気になるところです。

12ページは、平成31年以来4年ぶりに実施されました英語になります。こちらも国語、数学と同様に、全体の正答率およびすべての領域、観点、問題形式において、大阪府と全国の平均を下回っています。対全国比で見ましても0.90と、今回一番課題がある教科となっております。

13ページをご覧ください。中段の問題は、全国、大阪府と比べ正答率が低く、無解答率も高い問題になります。中学校英語問題冊子オレンジ色の付箋をご覧ください。「相

手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことができるかどうかみる問題になります。比較的、会話文でよく出そうな構文ですが、全国でも3割程度の正当率にとどまっております。

14ページからは、児童・生徒質問紙調査の結果になります。今年度は、順番も含め、質問項目の変更や削除が多くありました。内容については、15、16ページに掲載しております。

15、16ページをご覧ください。まず、表の見方ですが、表の左が質問内容、右が全国との比較、経年比較、になります。一番右側の前回と書いているところは、同じ質問がいつされたかということになります。「R4」であれば去年に引き続き、同じ質問であり、「H31」であれば、平成31年から、昨年度まで削除されていたものが今年度復活した問題になります。横バーは今年度、新規項目になります。比較の記号につきましては、○、◎は上回っている、▼が下回っていることを表しております。また、緑色に着色された質問については、国立教育政策研究所が「質問紙の肯定的解答と平均正答率に強い相関関係が見られる」と指摘されている質問項目になります。その中でも、17ページは本市の児童生徒に課題がある質問について掲載しております。

18ページは、昨年度課題が見られた「ICTを活用した学習状況」について、着目して掲載しております。但し、質問項目数が7項目に対して、今年度は3項目に減っております。

それでは結果の概要ですが、「基本的な生活習慣や挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等」といった質問項目については、ほとんどの項目で、8～9割程度の児童生徒が肯定的な解答をしています。

17ページをご覧ください。「学習習慣、学習環境等」には引き続き課題があります。上段2つのグラフをご覧ください。黄色矢印部分になります。平日は、小学校の5割程度の児童が、授業以外の勉強時間が1時間未満であり、休日においても、小学校の6割程度の児童、中学校の5割程度の生徒が、勉強時間が1時間未満になっています。平日休日ともに、授業以外で勉強を全くしない児童生徒の割合も全国と比較して大きくなっております。

18ページをご覧ください。「ICTを活用した学習状況」になります。グラフ中段、9割程度の児童生徒が、PC・タブレットなどのICT機器が勉強の役に立つと思っている。一方で、授業中のICT機器の使用について、3割程度の児童生徒が週1回未満（全国は1割程度）であり、中学校では、「ほぼ毎日」と解答した生徒の割合は、府や全国と比較して20ポイント以上小さい結果となりました。授業以外で、PC・タブレットなどのICT機器を勉強のために使うことが少なく、4から5割程度の児童生徒が「全く使っていない」と解答しています。

ICTを活用した学習状況に関する質問項目は、教科の平均正答率との高い相関関係は指摘されていませんが、活用状況については、今後、端末の種類や管理状況等をふまえて検証する必要があります。

19ページは、結果の概要と今後の取組みの方向性と家庭にお願いすることについて

記載しております。これらの結果をもとに学力向上推進委員会等をとおして、改善のための取組みに対して支援・指導をしていきたいと考えております。長くなりましたが以上でございます。ご審議よろしく願いいたします。

新子教育長：ご質問、ご意見等ございましたらお願いいたします。

太田委員：国分中学校が後から調査をしたということで、その結果を反映することによって、成績が上がる可能性はありましたか。

小室課長：教科にもよりますが、上がる可能性はございました。精査ができていないため、今は結果をお伝えすることができません。

太田委員：昨年度に比べて結果が下がった理由の分析はされていますか。色々な理由があると思いますが、家庭の経済状況と学力には相関関係があるといわれています。柏原の貧困率は他市と比べて低いとは思えませんが、結果は大阪府と比べても低いと。そのあたりがなぜなのか気になります。自分が柏原にきて教師をしていたときも、なぜ低いのか分かりませんでした。これからどういう分析をされていくのか。どうしていけばいいのか、今の段階ではどのようにお考えですか。

小室課長：平均というところですが、学校によってかなり差があります。単純に資料にあります平均が柏原の子たちをあらわしているかと申しますと、やはり学校による差が大きいため、一概にそうだとは申し上げにくいところがあります。学校別では大阪府の結果よりも飛びぬけてよい結果が出ている学校もあります。では、その学校がどのような取り組みを行っているのかということ、学校同士でも広げあっていくように学力向上推進委員会では進めていっておるところです。

田中委員：何年か前に算数か数学で低くなった学年がありました。その時は、専任の先生をうまくつけられなかったということでしたが、今回の結果に対しては、教員不足が原因と考えられたりはしませんか。他市では教員不足が大きな課題となっていますが。

小室課長：教員不足が原因かどうかの相関関係は分析できておりませんが、可能性は否定できないところです。

太田委員：アンケートの項目で、教員が熱心に教えているというのは結果で出ていると思います。授業やテストで間違ったところについて分かるまで教えてくれるといった項目に二重丸がついている。そのようなことから熱心さが分かります。ただ、数学については教えているかどうかの部分もあると思うので、やはり授業の作り方や教え方に課題があるように思います。もちろん研修をされたり、指導課から授業を見に行ったりアドバイスをされたりはしているとは思いますが。

あと、「書く力の育成」にずっと教育委員会では力を入れているところですが、今回の問題を見ても、やはり文章を理解できていれば書ける問題もあると思います。学校で、単純に書く量を増やしたら書く力がつくといったような指導になっていないか気になります。解答を書くにしても、その前段で、問題文を読み解いていないと書けないようなことばかりなので、やはり読解力の育成が大事なのではないかなと思います。その部分で他市に遅れをとっていただければよいのですが。

近藤委員：先ほど太田委員も仰っておられましたが、小学校の算数なんかでも問題内容を

読み取って考えないといけませんし、計算というよりも、内容を読み取ることができれば解答できるものが多いように思います。子どもたちが問題文を読んでいる途中で、読むのをやめようとなつて無解答となつていたりしていると思いますので、読解力が必要な複雑な問題ができていないのかなと感じました。

柏原市は毎年英語が弱いので、質問項目のところでも、英語のところでも三角がついているところからも、毎年のことですが、英語も重点的にやらないといけませんと思いました。

また、太田委員が仰っておられました学力と家庭の経済状況の相関関係について、中学校では平均正答率40%以下の子どもたちについては上下が激しいですが、小学校については数にしたら少しなのかもしれませんが上がっていますよね。

親にとってみれば、経済状況だけでなく、色々なことで心がいっぱいになると、子どものことは、とりあえず学校に通わせておけばいいといった考えになると思います。子どもが中学生にもなると、宿題しなさいといつてもなかなか言うことを聞かなかつたりしますが、小学校ではまだ聞き分けがあると思います。それでいて小学校で平均正答率40%以下の子どもの家庭というのは、家庭環境的に苦しくなっているかもしれませんので、気を付けていかないといけませんのではないかと感じました。

西村委員：中学校になると勉強が難しくなるので、格差はどんどん出てきます。小学校の国語、算数で正答率の低さが目立つということは、6年生より以前の段階での対応に目を向けないといけませんのではないかと思います。

ICTの利用が直接学力の向上に影響するかというと、それを使いこなせる人の能力がもちろん必要だとは思いますが、使いこなせている学校というのは感覚的に柔軟だと思えます。いろいろな学びを取り入れ、それぞれの子どもたちに適した学習を取り入れていきやすい風土があるのでICTが使える学校が増える、と私は思います。子どもたちもICTの利用に対して必要であると考えているがうまく使えていないことに対して、そのような視点からの分析をして見えてくるものがあるのではないかと思います。

太田委員：1つの問題文に対して読む量が増えていますが、それをじっくり読んで理解できるような基本の読解力をつけておけば、どんな問題が出てきてもいけるのではないかと思います。

また、これは問題を作る側のことですが、子どもの正答率が23.3%しかないような問題を作るというのはどうなのかなと。平均で7割あればよいのは分かりますが、全体の4分の1しか答えられない問題がよい問題なのかと疑問に思えます。

小室課長：1点補足です。学力向上推進委員会で取り組んでおります内容についてですが、先ほど各学校での好事例について共有していくということで、令和4年度までは教育委員会からこのようにしていこうと言うことが中心でしたが、今年度については各学校のよいところをとりあげていくといったかたちで進めていっております。かならずしもそれがすぐに結果に結びつくとは限りませんが、各学校の取り組みを管理職含めて、担当の先生が1人でやるといったことではなく、教員全体として主体的な学びを行うといったテーマで進めていっておるところです。本日いただいたご意見も共有しながら、進め

てまいりたいと考えております。よろしくお願ひいたします。

新子教育長：他にご意見、ご質問等よろしいでしょうか。

委員全員：なし。

新子教育長：ないようでございますので、議案第30号令和5年度全国学力・学習状況調査の結果の公表内容について、原案どおり承認してよろしいでしょうか。

委員全員：異議なし。

新子教育長：それでは、議案第30号令和5年度全国学力・学習状況調査の結果の公表内容については、原案どおり承認することにいたします。本日の議事案件は以上です。

(指導課より教育月間の案内について、こども施設課より幼稚園入園数について、スポーツ推進課より市民総合フェスティバルについて、それぞれ報告)

以上で第9回定例教育委員会会議を閉会いたします。

本教育委員会会議の議事の経過に相違ないことを証するためにここに署名する。

令和 年 月 日

柏原市教育委員